



ライブラリー

2023.7

《令和5年7月20日発行》

福崎町立図書館 図書館だより No. 108

福崎町西治360番地1 TEL. 0790-22-3790

<http://www.town.fukusaki.hyogo.jp/html/library/>

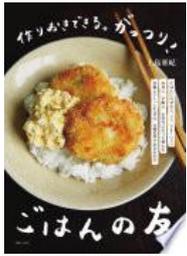
簡単・作り置きで楽々料理

毎日のご飯、お弁当作りは本当に大変です。少しでも楽においしいご飯を作るためのレシピを集めました。

『作りおきできる。がっつり！ごはんの友』

(上島亜紀 著 主婦と生活社 596/カ)

あつあつごはんの上においしいおかずをのせたらそれだけでもうりっぱな食事！食べ盛りの子どもの満足できるがっつり系、野菜がメインのヘルシー系などいろいろな種類のつけ丼のレシピがたくさんあります。



『白崎茶会の発酵定食』

(白崎裕子 著 マガジンハウス 596/シ)

甘酒、みそ、漬物など発酵食品で作り置きをストックしておいて、それを使って料理を作る。発酵食品も市販の物をそのまま使ったり少し手を加えて新たなストック食品にしたりと意外にハードル低めで挑戦しやすいと思います。



『やさしい作り置き』

(スガ 著 学研プラス 596/ス)

「手抜きは悪」「手間をかけなくてはいけない」そんな呪いにかかっている人にぜひ見てほしいレシピ本です。忙しい日でも工夫と準備、作り置きおかずがあることで食卓やお弁当のおかずが増え、気持ちが楽になります。毎日のことだからこそ楽しく続けるための楽を実践してみてもどうでしょう。



『朝つめるだけで、毎日ラクチン！』

作り置き+使いきりお弁当

(武蔵裕子 著 永岡書店 596.4/ム)

夕食の準備の時次の日のお弁当のおかずも一緒に作っておく、多めに作ってストックしておくなどわざわざ休日にストックを作るのではなくついでにしまえば手間も時間もぐんと省くことができます。これで毎日のお弁当作りもこわくない！！



図書館カレンダー

※行事・イベントは変更や中止になる可能性があります。

※ は休館日です。

8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 えほんの じかん 11:00~	3 資料整理	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19 おはなし会 11:00~
20	21	22	23	24	25	26 子ども 映画会 14:00~
27	28	29	30	31		

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6 えほんの じかん 11:00~	7 資料整理日	8 キャンドル ナイト	9
10	11	12	13	14	15	16 おはなし会 11:00~
17	18	19	20	21	22	23 子ども 映画会 14:00~
24	25	26	27	28	29	30

キャンドルナイト

日時 9月8日(金) 日没～

場所 図書館玄関前

今年もキャンドルナイトを開催します。コンサートとキャンドルの光でいつもとは違う図書館をお楽しみください。



図書館員おすすめの一冊

絵本作家のヨシタケシンスケさんとお笑い芸人の又吉直樹さん2人による本にまつわるお話。ある国の王様から世界中のめずらしい本を探し、その話を聞かせてほしいと言われた2人の男達は本を探す旅に出ます。そして一年後戻ってきた男達は王様に話し始めます。笑える、泣ける、感動、たくさんのお話をどうぞ。



『その本は』(又吉直樹・ヨシタケシンスケ 著 ポプラ社 F/マタ)

こどものほん



1・2年生



3・4年生



5・6年生

じぶん ころろ 自分の心



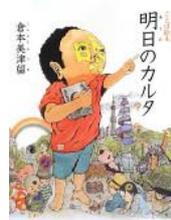
『つるかめつるかめ』(あずみ虫 絵)



「くわばらくわばら」「とーしとーし」にほんには、こわいことがあったときと
なえるじゅもんがあります。こわいものがあることははずかしいことじゃない。
じゅもんがたすけてくれるよ。



『明日のカルタ』(倉本美津留 著)



明日という漢字は明るい日と書きます。未来が明るいとなんだかうれしいよね。このカルタはみんなが明るい未来に進めるように、ちょっと背中をお
押してくれる言葉がのっています。



『ねえ、してる?』(いせひでこ 絵)



ぼくはおかあさんのだいじっこじゃなくなったのかな?おとうとがうまれてからみんながおとうとにむちゅう。そしたらぞうのそらさんがおはなしをはじめて・・・。



『折れない心を育てるいのちの授業』



(小澤竹俊 著)
「苦しみ」から人は自分や誰かを傷つけてしまう。しかし苦しみを
知るからこそ自分の気持ちもあります。苦しみと向き合い、誰かの苦しみにも
関わることが折れない心をつくるために大切なことです。

「コーヒー焙煎士への道」 (ほん) (だ) (な)



小学3年生の時にアスペルガー症候群と診断された著者の響君は、中学2年生から学校に行けなくなります。学校がすべてではない、行かなくてもいいという両親の考えで家のお手伝いなどをして過ごします。しかし生きていくにはこれから自分でお金を稼ぐ必要がある、自分には何が
できるのか考えている時にコーヒーの焙煎に出会います。そこから両親の店の横の倉庫を改装してコーヒー屋さんを始めます。しかしここに辿り着くまでにご両親も、本人もたくさんの悲しみ、不安、悔しさを乗り越えています。みんなが響君のようにうまくいくとは限りません。しかし障害のあるなしに関係なく人生には
たくさんの選択肢があるということに気付かせてくれた一冊です。



『15歳のコーヒー屋さん』

(岩野響 著 KADOKAWA 289.1/イワ)

『トライやる・ウィーク』

今年も中学2年生の生徒さんが図書館で5日間職場体験をしました。カウンターでの返却貸出作業、書架の本の整理、図書館応援隊の活動に参加させてもらったりと色々なことを体験しました。自分たちのおすすめの本を紹介する棚も作っています。図書館に展示しているのでぜひ見に来てください。